

二〇二四年度

適性検査Ⅰ

注意

- 1 問題は①のみで、2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五十分で、終わりは午前九時五十分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答题紙に明確に記入し、**解答题紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答题紙の決められたらんに記入しなさい。

共立女子第二中学校

問題は次のページからです。

1 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。(本文には一部改めた
ところがあります)

このようにまず想定してみましょう。

ひとつの世界があつて、それをある人間が観察しています。

そこでは人はあくせく朝から晩まで仕事をしています。しかし、観察者の目には、その仕事のかなりの部分がなんの意味もなく、たとえば、必要のない穴を掘つてはひたすら埋めているとか、提出後すぐに保管されて二度とみられることのない書類をひたすら書いているとか、そんな「仕事のための仕事」にいそしんでおり、ほとんど仕事のふりをしているようにしかみえません。そのような仕事がなくても、この世界で生まれている富の水準は維持できるだろうに。

ところが、こうした仕事をやっている人は概して社会的な評価が高く、それなりの報酬をもらっています。それに対して、社会的に意味のある仕事をやっている人、おそらくかれらがいなければこの世界は回っていかないか、あるいは多数の人にとって生きがいのない世界になってしまうような仕事もやっている人たちは、低い報酬や劣悪な労働条件に苦しんでいます。しかもますます、かれらの労働条件は悪化しているようなのです。

観察者は、いったいどうしてこんなことになったのか、調べてみようとおもいます。

まず、いまのこの状況を100年前の視点からみるとどうなるか、検

討しました。

すると、おおよそ100年前には、働く人たちは組合を組織して、賃上げよりも、労働時間を短縮すること、自由時間を獲得することに重きをおいていたことがみえてきました。そしてその根底には、労働から解放されたいという動機があることがわかりました。

そしていまでもとても尊敬されているその世代随一の経済学者も、10年後には、技術の向上やそれに由来する生産力の上昇によって、人は1日4時間、週3日働けばすむようになっていると予言しています。

100年前のこうした人たちの要求と予言をあわせるなら、そうやっていてもおかしくないのです。

ところが、この世界はそうなっていません。人は、ただひたすら穴を掘つては埋めることに時間をついやすことを選んでようにみえます。

観察者は、この世界の中に入ってフィールドワークをはじめました。

すると、意外なことがわかります。じぶんたちの仕事穴を掘つて埋めているだけだ、とか、だれも読まない書類を書いているだけだ、と、仕事に就いているかなりの人が気づいていて、しかも、それに苦しんでいることです。

そしてそのような精神状況がうつすらとこの世界を覆い、職場だけではなく社会全体が殺気立っていること、険悪になっていることに気がつきます。

この観察者は、その理由を考えます。

50年ぐらい前(1960年代)には、ほとんど働かないですむような世界を多くの人たちがもとめはじめた時代がありました。そして経済学者の予想した通り、客観的にも、可能性としては、その実現は遠いものではなくなっていました。

ところが、世界を支配している人々からすると、それが実現するということは、人々が、じぶんたちの手を逃れ、勝手気ままに世界をつくりはじめることにほかなりません。そうすると、じぶんたちは支配する力も富も失ってしまうこととなります。

そこでかれらは、あの手この手を考えます。

そのなかのひとつが、人々のなかに長いあいだ根づいている仕事についての考え方を活用し、あたらしい装いで流布させることでした。

その考え方は、仕事はそれだけで尊い、人間は放っておくとなるべく楽しんでたくさんものをえようとすることでもない気質をもっている、だから額に汗して仕事をする^{あせ}こと^{あせ}によって人間は一人前の人間に仕立て上げられるのだ、と、こういったものです。

(酒井隆史『ブルシット・ジョブの謎』^{なぞ}による)

〔注〕 *1 フィールドワーク：実際の現場で、調査や観察、研究をすること。

*2 流布：広く世間に行きわたること。

〔問題1〕 「こうした仕事」とはどのような「仕事」ですか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。

なお、や。や「なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題2〕 これから約十年後、多くの皆さんは「仕事」に就くこととなります。あなたが「仕事」というものに持っている考え方を本文の内容にもふれながら述べなさい。

次の「**きまり**」にしたがって、三百字以上四百字以内でまとめなさい。

〔きまり〕

- 最初の行から書き始める。
- 各段落の最初の字は一字下げて書く。^{だんちやく}
- 段落をかえたときの残りのまずめは字数として数える。
- 、や。や「なども、それぞれ字数に数える。ただし。と」は同じますすに入れ、一字と数える。